

## 令和5年度ながおかヘルシープラン21策定・推進連絡会議（書面会議）意見書

### 1 質問に対する回答

Q 1 国の「健康日本21（第3次）」にもある「ライフコースアプローチ」に、注釈をいれたほうがよいのではないかな。

A 1 注釈を表記します。

Q 2 基本方針2の「主体的な多世代健康づくりの広がり」の「広がり」が、方針という市が主体的に動いていくものに、なじまないように思えるのですが「主体的な多世代健康づくりの推進」などが適当ではないかな。

A 2 基本方針2は、主体的な多世代健康づくりが広がる環境を整えていくというものです。御指摘のとおり「推進」を追加し「主体的な多世代健康づくりの広がりを推進」とします。

Q 3 ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりについて、女性の健康についての目標がありますが、女性の健康課題は若年女性のやせ、飲酒、喫煙だけか。健康に不調が出やすい壮年期以降への視点が弱いのではないかな。

A 3 策定・推進連絡会議で検討していきます。

Q 4 「女性」の目標に対して、施策の展開で、「地域・職域連携の推進」とあるが、学校分野を入れることは難しいか。若年女性やせの減少を達成するためには、小学校高学年～高校生への普及啓発、あわせて保護者に対する普及啓発が必要なものと思われるため

A 4 策定・推進連絡会議で検討していきます。

Q 5 「こども」はもっと基本的な生活習慣を整える視点をいれた方がよいのではないかな。例えば、睡眠などは、生活の中で大切なのに削られやすいため。

A 5 策定・推進連絡会議で検討していきます。

## 2 第3次ながおかヘルシープラン 21 の基本方針について意見

	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第2次ながおかヘルシープラン 21 最終評価まとめ」について、学童思春期において“バランスのよい食事への意識が高まっている”にも関わらず、青年期では“食事バランスの悪化や欠食等が課題”となっており、学校という枠組みや親の管理を離れてからの食事への意識が課題と感じた。</li> <li>・「令和4年度推進協議会意見」において、アドバイザーから“各地域における評価”の言及があった。健康意識や取組の効果が、他の地域より高い地域の住民にとっては励みになり、良いと思う。</li> </ul>
2	基本目標に健康寿命の延伸を掲げているが、計画上具体的な数値で実績、目標の経年的な推移を示す予定はあるか。健康寿命の算定には要介護認定の状況を用いる方法があるが、その方法によるのであれば、現在策定中の第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に示す要介護認定者数の推計値と整合を図る必要がある。
3	国保年金課は健康増進課とともに、今年度、長岡市国民健康保険第3期データヘルス計画及び第4期特定健康診査等実施計画の策定期間であり、第3次ながおかヘルシープラン 21 と連携を図りながら進めていきたい。
4	第2次ながおかヘルシープラン 21 では、青年期や高齢期において運動習慣が改善したが、壮年期において運動習慣の改善が見られないという結果であった。壮年期の運動習慣を改善するためのアプローチを重視し、健康的な生活習慣の継続と健康状態の改善に繋げていきたい。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育課では登校や外出が困難な子どもたちへの支援について、継続的に取り組んでいます。ながおかヘルシープラン 21 においても、第2次と同様に、こどものことに関する取組は、引き続き重要だと考えます。</li> <li>・義務教育終了（中学校卒業）後、青年期のことに関する取組を専門的に行う担当部署が不在で連携できないため、担当部署を設けるとよいと思います。</li> </ul>
6	ながおかヘルシープランは、もともと住民の声（ありたい姿）を反映して策定した計画であったが、「ありたい姿」をどう評価していくか難しかったと感じている。今回、国の健康日本 21（第3次）の概念図にならった形で示されており、目標や比較可能な評価指標ははっきりしたが、「人とひと、笑顔がはぐくむ、健康なまちながおか」という基本理念への評価指標も決めることが必要。
7	市民が主体的に健康づくりに取り組む、参画できるような市民に、計画を周知していけるとよいと思う。
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」というキーワードが出てきたが、これは「予防的介入の重視」が全ての健康課題にとって重要であると理解した。</li> <li>・“ライフコースアプローチ”を有機的に実践するには、まず事務局である行政が部署の縦割りを超え、部署横断的に互いの業務や関係機関を理解し、連携することが必要と考える。</li> <li>・「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」を推進するには、 ①市民が自らアプローチして参加する事業（地域や民間で実施？）</li> </ul>

	<p>②対象者全員にアプローチする事業（行政で実施） 双方の取り組みが必要。</p> <p>特に②は費用対効果やマンパワーの問題から縮小される傾向にある。計画に、②のような事業の必要性・重要性を明記してほしい。「健康日本21」の新たな視点にも「②自然に健康になれる環境づくり」を取り入れるよう推奨されていることから、ながおかヘルシープラン21にも明記してほしい。</p>
9	<p>・タニタに変わる取り組みとして、健康ポイント（健診受診、健康づくりに関係する講座受講、歩数などに応じ）と長岡ペイなどと連動ができると良い…楽しく健康づくりに取り組めて、ポイントがたまることで還元が得られるような施策展開</p>

### 3 「主体的な多世代健康づくりの広がり」について、連携できそうな各課の事業や取組

	内容
1	<p>・障害者スポーツ教室は参加者の世代が幅広いため、多世代交流にもつながっている。心身の健康維持が図られる。</p> <p>・パラスポーツ体験会を計画している。障害の有無、世代を問わず参加できる会にしたいと考えている。この体験会をきっかけに、運動への意識づけの一助になればと思う。</p>
2	各コミュニティ組織（コミュニティ推進協議会）が主体的・自主的に行う、各種健康づくり事業
3	e スポーツ普及推進に関する取組
4	中之島地域の情報をタイムリーに発信するために、まず市のLINEに登録してもらい、さらに中之島地域の情報を受信できるよう選択登録してもらっている。今は母子事業に参加している保護者に主に勧めているが、今後はほかの対象にも勧めることを検討している。